

第 4 学年 社会科学学習指導案

- 1 単元名 郷土の発展に尽くす「吉村新兵衛の思いを受け継ごう」（東京書籍「新しい社会 3・4 年下」 pp. 102-127

2 単元について

- 本単元は、学習指導要領の第 3 学年及び第 4 学年の目標（2）「地域の地理的環境、人々の生活の変化や地域の発展に尽くした先人の働きについて理解できるようにし、地域社会に対する誇りと愛情を育てるようにする」及び内容（5）「地域の人々の生活について、次のことを見学、調査したり年表にまとめたりして調べ、人々の生活の変化や人々の願い、地域の人々の生活の向上に尽くした先人の働きや苦心を考えるようにする」を受けて設定されている。地域の発展に尽くした先人を取り上げ、先人の願いや工夫、努力によって、地域の人々の生活が向上してきたことを考えることができるようにすることをねらいとしている。

そこで本単元では、地域の発展に尽くした先人の具体例として、嬉野茶の発展に貢献した吉村新兵衛を取り上げることにした。嬉野は、なだらかな山間地で霧深く、昼夜の温度差があり、日照量などの条件が茶の栽培に適しており、嬉野茶は、毎年行われている全国茶品評会において何度も最高賞を受賞している。その地場産業の基礎を築いたのが吉村新兵衛である。吉村新兵衛は、自ら山を切り開いて荒れ地を耕し、種をまき、茶の木の栽培を始めた人物である。約 400 年前の嬉野の不動山は、山が多く米の栽培が難しく人々の暮らしは貧しかった。吉村新兵衛は、中国から伝わったお茶に目を向けお茶作りに取り組み、広げていった。その頃に植えられたとされる樹齢約 350 年の大茶樹は、国の天然記念物に指定されている。吉村新兵衛の子孫も、同様に努力や苦勞を重ねながら、茶畑の開発や茶の改良などを行い、嬉野茶だけでなく嬉野の発展に力を尽くしてきたのである。

吉村新兵衛とその子孫の働きを学習することで、地域の発展に尽くした人々の努力や工夫を理解することができる。また、地域のために尽くした先人の思いに触れることで、児童の地域社会に対する誇りと愛情を育てこれからの嬉野を考える素地を築くことができる単元である。

- 本学級の児童は、社会科の学習に関心をもって意欲的に学んでいる。本学級の児童を対象に、社会科の授業に関する意識調査を行ったところ、社会の授業で学習したことが、将来、社会に出たときに役に立つと学習の有用性を感じている児童は「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」を合わせると 27 名中 26 名と多い。また、社会の授業で、自分が調べたり、考えたりすることをはっきりと分かって学習している児童は「当てはまる」または「どちらかと言えば当てはまる」と全ての児童が答えている。しかし、実際に毎時間の振り返りの記述を見てみると、本時の学習課題についての記述はしているが、単元の学習問題について記述している児童は約 3 割である。このことから、児童は 1 時間毎の学習課題については自分が調べたり考えたりすることをはっきり分かってはいるが、単元の学習問題を解決するという意識は薄いのではないかと考えられる。これまで学習問題設定を学級全体で進めてきたため、一人一人が十分に切実感を持てていない。特に課題追究の過程では、毎時間、学習問題の解決に向けて学習をしているため、学習問題に対する切実感を持たせる必要がある。

吉村新兵衛については、3 年時に総合的な学習の時間で「嬉野茶」について学習した際に学んでいるが、「大茶樹を植えた人」という認識の児童がほとんどで詳しい働きや願いについて理解できてい

ない。

- 指導に当たっては、「学習問題をつかむ」過程では、嬉野茶に対する興味関心を高めるため、嬉野茶の美味しい入れ方を学び、嬉野茶のよさを体験する機会を設ける。その上で、嬉野茶の受賞歴や生産量や販売高を紹介し、嬉野茶の凄さを実感させるとともに、児童も参加したうれしの茶ミットを紹介し、身近な存在として嬉野茶があることを確認する。そして、嬉野茶の歴史に目を向けさせながら、吉村新兵衛に注目させる。ここでは、「吉村新兵衛さん祭り」に関する新聞記事や写真への自分たちの気付きや疑問を基に一人一人が学習問題を作る。この際、気付きや疑問を「時代」「お茶づくり」「感謝」「思い」という観点に分けた上で、全体で学習問題として「吉村新兵衛さんは、どのような思いで、どのようにしてお茶づくりをしたのだろう。」を設定する。観点を明確にし、自分たちで考えることで学習問題へ切実感を持たせるようにしたい。

「調べる」過程では、学習問題設定の際に出た「時代」「お茶づくり」「感謝」「思い」という観点を調べるための計画を考えさせる。また、常に学習問題を意識して学習できるように教室に学習問題を掲示しておく。調べる手段として、主に副読本「わたしたちの嬉野市」や教師の用意した資料、インターネットのWebページを使用させる。その上で十分に分からなかったことをゲストティーチャーにインタビューすることで吉村新兵衛をはじめとする人々の働きや努力を調べさせ、嬉野を良くしたいという吉村新兵衛の思いを考えさせたい。

「考え・まとめる」過程では、吉村新兵衛やその子孫について調べて分かったことを「時代」「お茶づくり」「感謝」「思い」という観点ごとに新聞にまとめさせ、吉村新兵衛やその子孫が嬉野の発展に貢献したことを考えさせたい。最後に、単元を通じた児童の学習問題に対する答えを文章で記述させる。

3 単元の目標

地域の発展に尽くした吉村新兵衛とその子孫の働きに関心を持ち、地域の発展に尽くした先人の働きや努力について副読本等の資料、インターネットのWebページ、ゲストティーチャーの話を通して意欲的に調べ、吉村新兵衛の嬉野への思いと地域の人々の生活が向上してきたことを考えることができるようにする。

4 評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度【関】	社会的な 思考・判断・表現【思】	観察・資料活用の 技能【技】	社会的事象についての 知識・理解【知】
○嬉野茶の美味しさを味わい、全国的にも有名な嬉野茶に興味を持ち意欲的に調べている。	○資料や写真への気付きや疑問を持ち、学習問題を考え、表現している。 ○「時代」「お茶づくり」「感謝」「思い」の観点ごとに調べたことを関連付け、吉村新兵衛の嬉野への思いや嬉野の発展に尽くしたことについて考え、適切に表現している。	○副読本や資料、インターネットのWebページ、ゲストティーチャーの話から先人の働きや努力などを調べ、必要な情報を集め、読み取っている。	○吉村新兵衛のお茶づくりの様子や努力や工夫、当時の時代状況を理解している。 ○先人の願いや努力に気付き、先人の働きが人々の生活向上につながったことを理解している。

5 単元計画 (全 7 時間 本時 2 / 7)

過程	主な学習活動	教師の働き掛け(○)	評価(・)評価の観点【】	時配
学習問題を つかむ	○嬉野茶のすばらしさについて体験する。	○美味しいお茶の入れ方を教えてもらい自分でお茶を入れたり飲んだりすることを通して、嬉野茶への興味・関心を引き出す。	・嬉野茶の美味しさを味わい、全国的にも有名な嬉野茶に興味を持ち意欲的に調べている。 【関】	1
	○吉村新兵衛への気付きや疑問を基に学習問題を設定する。	○吉村新兵衛に関する資料を見せ第 3 学年時の学習では知らなかったことに会わせることで興味を抱かせる。	・資料や写真への気付きや疑問を持ち学習問題を考え、発言したり、ワークシートに記述したりしている。 【思】	1
	吉村新兵衛は、どのような思いで、どのようにしてお茶づくりをしたのだろう (学習問題)			本時 2 / 7
調べる	○「時代」「お茶づくり」「感謝」「思い」の観点を調べるための計画を考える。 ○学習問題を解決させるために「時代」「お茶づくり」について調べる。	○副読本「わたしたちの嬉野市」や吉村新兵衛に関する資料を基に時代背景や不動山でのお茶づくりの工夫について調べさせる。 ○学習問題に注目させたり、本時の課題とのつながりについて考えさせたりする発問や声掛けをする。	・副読本や資料、インターネットのWebページなどから先人の働きや努力などを調べ、必要な情報を集め、読み取っている。 【技】 ・吉村新兵衛のお茶づくりの様子や努力や工夫、当時の時代状況を理解している。 【知】	1
	○学習問題を解決させるために「感謝」「思い」について考えさせる。	○吉村新兵衛に関する資料やインターネットのWebページを基に地域の発展に尽くし、現在の自分たちの生活につながっていることを調べ、吉村新兵衛の思いについて考えさせる。	・副読本や資料、インターネットのWebページなどから先人の働きや努力などを調べ、必要な情報を集め、読み取っている。 【技】 ・吉村新兵衛のお茶づくりの様子や努力や工夫、当時の時代状況を理解している。 【知】	1
	○ゲストティーチャーから、吉村新兵衛とその子孫の働きや努力について話を聞く。	○吉村新兵衛とその子孫についてインタビューを通して調べさせ、「もし吉村新兵衛	・ゲストティーチャーの話から先人の働きや努力などを調べ、必要な情	1

		がお茶づくりを嬉野でしなかったら？」という問いを投げ掛け、吉村新兵衛とその子孫の働きや努力について考えさせる。	報を集めている。 【技】 ・吉村新兵衛のお茶づくりの様子や努力や工夫、当時の時代状況を理解している。 【知】	
考え・まとめる	○吉村新兵衛や子孫について分かったことを新聞にまとめる。	○吉村新兵衛や子孫の功績について調べて分かったことを「時代」「お茶づくり」「感謝」「思い」の観点での観点ごとに新聞にまとめさせる。	・「時代」「お茶づくり」「感謝」「思い」の観点ごとに調べたことを関連付け、吉村新兵衛の嬉野への思いや嬉野の発展に尽くしたことについて考え、適切に表現している。 【思】	1
	○学習問題に対する答えを記述し、交流する。	○これまでの学習を踏まえて学習問題に対する答えを記述させ、交流させる。	・先人の願いや努力に気付き、先人の働きが人々の生活向上につながったことを理解している。 【知】	1

6 本時の目標

吉村新兵衛に関する資料や写真への気付きや疑問を持ち、学習問題を考え、表現することができるようにする。
(社会的な思考・判断・表現)

7 展開(全 7 時間 本時 2 / 7)

学習活動（・期待される児童の反応）	教師の働き掛け(○)と評価【】
1 嬉野茶の体験を振り返り、嬉野茶の感想を交流する。 〈全体〉	○おいしい嬉野茶の入れ方を学んだことを振り返り、嬉野茶の受賞歴等、生産量や売り上げ等の資料を示し、嬉野茶のすばらしさや凄さを全体で再確認させる。
2 本時のめあてを知る。 〈全体〉	○昔の茶畑の様子や大茶樹の写真を見せ、吉村新兵衛に注目させる。
本時のめあて 資料への気付きや疑問から学習問題をつくろう。	
3 吉村新兵衛に関する資料や写真を通して気付いたことや疑問に思ったことを書いて、話し合う。 〈個人→グループ→全体〉	○新聞記事や写真を少しずつ提示して発問をするなど、児童の興味関心を高めるようにする。 ○「吉村新兵衛さん祭り」の新聞記事や写真への気付き(!)や疑問(?)をワークシートに書かせ、グループで交流した後、全体で話し合い、考えを共有させる。

【時代】 (！)1600 年～1675 年の人。→昔の人。 (！)約 400 年前。→お茶の木ない。 山や荒地。米や作物が育たない。 【お茶づくり】 (?)佐賀の白石町の武士なのにどうして嬉野の不動山なのか。 →嬉野が好きになった。 (?)なぜお茶づくりを始めたのか。 →お茶に向いた土地。 (?)どうして武士なのに お茶づくりなのか。 →お茶づくりが得意だった。		4 つの観点で分けて黒板に書く。 ※(！)気付き，(?)疑問，→問い返し 【感謝】 (?) どうして新茶のお茶摘みの前なのか。 →お茶の良い出来を願う→お茶を始めた大切な人。 (!) 市長もいる。 (!) 100 人→たくさん→感謝されている。 【思い】 (?) どんな思いでお茶づくりを始めたのだろう。→嬉野のために。 (?) どんな苦労があったのだろう。→畑づくり。	
4 気付きや疑問を基に学習問題をつくる。 〈個人→全体〉		○気付きや疑問を発表させ、それに対する予想を問い返しながらかえさせる。 ○児童の気付きや疑問を意識的に分けて板書し、児童にどんな観点でまとめられるかを考えさせながら「時代」「お茶づくり」「感謝」「思い」に分ける。 ○資料や写真への気付きや疑問を持たせた上で、学習問題を考えさせる。 【評価】 ○「時代」「お茶づくり」「感謝」「思い」の観点を意識させ、学習問題を考えさせる。	
学習問題Ⅰ 吉村新兵衛は、どのような思いで、どのようにしてお茶づくりをしたのだろう。			
5 振り返りをし、次時の学習内容を知る。 〈個人→全体〉		○一人一人に本時の振り返りをさせ、次回から学習問題解決のために、4 つの観点について調べていくことを確認する。	

8 本時の評価

評価規準	資料や写真への気付きや疑問を持ち学習問題を立てている。 (社会的な思考・判断・表現)		
判断する目安 (判定基準)	十分満足できる状況(A) 吉村新兵衛に関する資料や写真から気付きや疑問を持ち、先人の働きや努力を追究できるような学習問題を立てている。	おおむね満足できる状況(B) 吉村新兵衛に関する資料や写真から気付きや疑問を持ち、自分なりの学習問題を立てている。	努力を要する状況(C) (B)に達していない記述
→(B), (C)と判断した児童への支援		→先人の働きや努力を追究できるような学習問題であるのか考えるように助言する。	→気付きや疑問を振り返らせ、これから調べていきたいことを考えるように助言する。
評価方法	ワークシートの記述		